



北九州市立/旭小中学校 6年 中山 真知子 作



北九州市立/藤井小中学校 5年 藤田 夏次 作

Fukuoka Prefectural Association of Building Maintenance 1997 of Building Maintenance 1997

都市・ひと・自然を考える

10月4日

都市ビル環境の日

— 行事プログラム —



北九州市立/八小中学校 4年 笠原 朝香 作



福岡市立/多々良小中学校 1年 藤田 夏次 作

主 催
社団法人
福岡県ビルメンテナンス協会
〒812 福岡市東区三軒が樋二丁目1番1号 電話092-732
TEL:092-4614401 FAX:092-4614402

後 援
福岡県

協 賛
財団法人ビル管理教育センター
社団法人福岡ビルディング協会
社団法人福岡県警備業協会
日本環境管理学会九州支部
社団法人福岡住宅管理業協会九州地方支部
社団法人建築物飲料水管理協会福岡支部
全国管長争正協議会
福岡県ベストコントロール協会
福岡ガラス外装クリーニング協会
福岡県ビル管理協同組合連合会
福岡総合ビル管理事業協同組合
田川ビルメンテナンス協同組合
飯塚ビル管理事業協同組合
広方ビル管理協同組合
北九メンテ協同組合
北九州ビルメンテナンス協同組合
筑後地区ビル管理業協同組合
筑前地区ビル管理事業協同組合
大牟田ビル管理業協同組合

社団法人 福岡県ビルメンテナンス協会

10月4日 「都市ビル環境の日」

設定主旨

コミュニティの快適な 環境創造をめざして

林立するビル、複雑に走る高速道路、地下を走る公共鉄道。都市のイメージは大きな建造物で溢れかたります。しかし、その都市のなかでは日々仕事に汗を流し、日々と生活を送っている多くの人々がいることを忘れてはなりません。人間の生命活動から考えるならば、都市は人々が交流するコミュニティと捉えることができます。生活空間、仕事空間、あるいは余暇空間など、さまざまな都市空間のなかで小さなコミュニティを築き、そのコミュニティが交流し合いながら大きなコミュニティを形成してきました。

私たちビルメンテナンスは、ビルという建造物を単にメンテナンスするだけでなく、このコミュニティを常に快適な状態に維持しようと努めてきました。仕事の場としての事務所ビル、車庫の場としての高層住宅ビル、余暇の場としての商業ビル、健康回復の場としての病院ビル。ビルは都市機能の重要な装置というだけでなく、そのビルで営まれるさまざまなコミュニティこそ都市機能の基盤であり、私たちは、そのコミュニティを安全で衛生的で、快適な環境に創り上げていくことを基本的な目的としています。

したがって私たちは、コミュニティの結び付きで形成されてきた都市の環境全般に対しても無関心ではられません。個々のビルの快適環境だけでは、都市環境はバランスを欠きます。個々のビルが所属する地域の環境を良好にしてはじめて、そのビルが地域コミュニティに存在する意味があると考えます。その積み重ねのなかで都市全体を快適な環境に創り上げ、市民が豊かで住みやすい街として愛することのできる都市に育てていかなければなりません。

福岡県は、福岡市と北九州市の百万都市を抱えながらも、深い自然と身近に接する環境を有しています。私たちは、その自然と融合できる都市環境を築き上げていかなければなりません。

私たち社団法人福岡県ビルメンテナンス協会は、自らの仕事で都市との強い結び付きのあることを考え、他みよい街づくりに貢献していくことを目的として、10月4日を「都市ビル環境の日」と定め、市民に都市の環境づくりをアピールしていきます。



都市ビル環境の日'97

「ビル廃棄物の衛生的減量管理」

いま、大量の廃棄物が地球を脅かしています。大量生産と大量消費の過程のなかで排出される大量の廃棄物は、海や山、そして大気環境を汚染しています。その付けは、人間が求めてきたはずの豊かさを破壊するだけでなく、地球上のあらゆる生物の生存権をも脅威に陥れようとしています。

都市は工業地域とともに、廃棄物の大量排出者です。工業地域で工場が排出するように、都市では家庭とビルが廃棄物を大量に排出します。都市機能の維持にとって、廃棄物の処理はきわめて重要な課題と百々ねばなりません。したがって、政治は制度をつくり、その下で行政は都市廃棄物の処理に多くの費用と労力を費やしています。しかし、すでに質量的に大量になりすぎた廃棄物の処理は、政治や行政の責任だけに帰してしまう限界を超えてしまっています。生産し、生活する個々の人々と組織が、自ら排出責任を保有しているという認識から、課題解決の行動を開始しなければなりません。昨年のテーマであった「水」と同様に、廃棄物もまた「ただ」ではありません。削減すると人と組織が負担を分け合う必要があります。

都市では家庭とともに、ビルも排出責任を問われています。しかし、その責任をビル所有者だけに求めて良いはずはありません。まず第一の排出責任は、ゴミを捨てたビル内のテナント企業に帰属します。ビル所有者は、捨てられたゴミを合理的・衛生的に処理し、ビル外へ排出していく管理責任を有しています。ビルメンテナンス業者は、ビル所有者の管理責任を支援し、廃棄物の収集・運搬・集積・処理・保管などの業務を確実に実施する業務遂行責任を有しています。このようにビルの排出責任は、それぞれの立場から生まれるそれぞれの責任が相互に結びつきあった総合責任と見るべきです。

問題解決は、最終処分場に行き着いてしまう廃棄物の絶対量を少なくしていく以外に方法はありません。そのためには、まず捨てられるものを少なくすること（減量化）、廃棄されるものを再び利用に供すること（再利用）、捨てられるものを原料として利用すること（再資源化）などが考えられます。ビルにおいても、それぞれの立場から、これらを実施していく組織的な管理体制が整備されなくてはなりません。

再利用、再資源化を実現するためには、分別という過程を絶対的に通らねばなりません。言うまでもなく、分別は廃棄後よりも排出者の責任において廃棄時に行われることが最も有効です。そして、分別して捨てられた廃棄物を、そのままの状態でも維持し、更に分別を完全にしていくためには、ビル所有者の責任において処理計画と処理設備が整備され、ビルメンテナンス業者の責任において収集・運搬・保管などの業務システムが構築されなくてはなりません。そのシステムには、減量処理の側面とともに、衛生的処理の側面も当然含まれています。

ビルがどのような形で廃棄物を出すかということは、言うまでもなく社会的なリサイクルシステムの現状に規定されます。減量化はビル独自の努力によって実現する場合も多くありますが、分別による再資源化、再利用は、ビルのゴミを受け取る社会体制全体の課題となってきます。しかし、少なくとも受け取り可能な廃棄物があるならば、ビルは受け取れる形にして出す努力をなすべきでしょう。



〔社〕福岡県ビルメンテナンス協会 会長
末吉 桓卓

地域との関係を積極的に考え
より一層の社会的責務を
果たしたい。

福岡県、並びに関係業界の皆様から、また福岡県ビルメンテナンス協会の会員様からの多大なご厚力によって、「都市ビル環境の日」と3年目を迎えることができました。心より深く感謝を申し上げます。

私たちは「都市ビル環境の日」を設定することによって、ビル環境をビルの中だけに関係としてとらえるのではなく、都市環境とのつながりの中で考えていこうとして参りました。ビル環境に携わる私たちビルメンタナスは、自ら積極的に地域との関係、都市との関係を築き結ぶことによって、自らの社会的役割を果たすことができ、広い意味での環境への貢献を果たすことができたと感じております。

「クリーンアップ福岡」で、ほりきを持ち、ちりとりを持って外に飛び出すことは、単なる社会奉仕を意味するものではなく、ビル環境と都市環境のつながりをアピールするとともに、そこに存在するビルメンタナスの役割を深めようとしているわけです。

今年もビル管理技術者のセミナーを開催いたしますが、ビル環境を支える技術者の方々、日々ご苦労されている経験や知識を交換しあい、ビル環境を一層良好にしていこうと、都市環境に対するビル環境の責務をさらに啓発していくことを期待しております。

そして、今年の「都市ビル環境の日」シンポジウムのテーマは、「都市とビル環境」でございます。昨年のテーマ「水の循環管理」とともに、社会的に極めて重大な課題を含んでおりますが、しかし、水以上に有効な対策がとられていない街にやがていよいよ問題ということがあります。

とにかく廃棄物を減らすなくてはならないというのが、否応なく迫られる21世紀人類の課題といっても過言ではありません。持てるものを少なくすること、再利用すること、再資源化すること、この3つ以外に廃棄物減量の方策はなさそうです。しかし、この方策を実現するためには、個人や企業の自覚の上に、社会的なシステムが作り上げられなくてはなりません。

ビル廃棄物も、選ばれるものが再資源や再資源化と結びついているならば、ビルは廃棄物の処理システムを確立する必要があります。ビル廃棄物の最大当事者が、都市環境に極めて大きな貢献をえています。11月半のシステムづくりが急がなくてはなりません。シンポジウムの開催趣旨が、今後のビル廃棄物処理に少しでも役立てていただければ誠に幸いでございます。多数の参加をお願ひ申し上げます。



福岡県加事
麻生 渡

意義深い記念行事の開催を
喜ぶとともに、今後の一層の
ご活躍を期待します。

「都市ビル環境の日」記念行事が盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和44年5月に設立されて以来、建築物のより衛生的な環境や安全性の確保をめざして、積極的に関係業者の指導育成に努力され、著実にその成果をおさめてこられており、皆さんのご尽力に深く敬意を表します。

現在、地球環境の環境問題が顕著になっていますが、身近なゴミ問題においても、ゴミの減量化・資源のリサイクル化などのさまざまな課題が生じています。さらに、市民の皆さんの意識は、物質的にも精神的にも、よりゆとりと潤いのある暮らしや安全で快適な環境を求める方向へと変化し、それらの人びとの多くが利用する建築物においては、よりいっそう快適性や安全性を考慮した環境づくりが要求されています。

このような中、貴協会が全国に先駆けて平成7年から10月4日を「都市ビル環境の日」と設定し、都市と自然環境が調和した「人間のために機能する美しい街づくり」をテーマに、今年も記念行事を開催することは誠に意義深いものがあると申せましょう。

記念行事に参加される皆さんにおかれましては、今後の業界界の果たす役割を十分認識されるとともに、建築物におけるより快適な環境づくりになお一層貢献されることを期待します。

果としましても、今後とも「安全で快適な生活環境づくりの推進」のため、各種施策を積極的に取り組んでいきますので、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

記念行事のご成功と貴協会のますますのご発展、皆さんのご健康を心から祈念してお祝ひの言葉とします。



福岡市長
桑原 敬一

今後のビルメン業界の活性化と
積極的な事業への取り組みに
期待します。

「都市ビル環境の日」の式典が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

福岡市におきましては、ごみの発生量の急増により、平成5年4月に「福岡市廃棄物の減量及び資源処理等に関する条例」を施行し、特にごみが大量に発生する事業者の方に対しては、「廃棄物減量等推進責任者」の選任及び「廃棄物の減量等に関する計画案」の提出等具体的な義務を規定し、ごみ減量・再資源化への取り組みの推進にご協力いただいているところであります。

古紙回収や燃焼したごみの分別、会社をあげての組織的な取り組みなど、事業活動にあわせて様々な取り組みを実施され大きな成果を上げていただいておりますことは、ビルの衛生管理に関わっておられます皆様方のご尽力・ご努力の賜であり、深く感謝いたしております。

しかしながら、このままだごみが増え続ければ発生量が処理能力を超えることが予想され、また、森林資源の保護など大切な地球環境を守るためにも、ごみの減量・再資源化への取り組みは不可欠であり、「都市ビル環境の日」にごみ問題をテーマに取り上げられ、議論を動かしいただくことは誠に意義深いものがあり、心からご賛同を申し上げるものであります。

21世紀を目前にした現在、社会課題は大きな変動の中であり、ビルメンタナス業界におかれましては、より効率的な質の高い維持管理、うるおいやゆとりのある空間づくりなどが求められており、人々が1日の大半を過ごす建築物の衛生的でかつ快適な環境の確保に日々努めておられます皆様方の役割は、ますます重要なものとなっております。

今後とも、貴協会が業界の活性化に努められ、さらに積極的に事業に取組んでいかれますことを期待いたします。

最後になりましたが、貴協会のますますのご発展と会員の皆様のご健康を心からお祈りいたします。



北九州市長
末吉 興一

快適な職場環境・居住環境の
維持改善へのご尽力に
心から敬意を表します。

「都市ビル環境の日」の記念式典が盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

安全で快適な職場環境、居住環境の維持改善に日々ご尽力されておられる関係業界の皆様へ深く敬意を表します。

都市機能が集中する都心部では、ビルの大規模化や多層化が進み、安全性や快適性について多様で高度なビル管理の技術や手法などが強く求められ、ビルメンテナンス業界に寄せる関心と期待はますます高まっています。

また、ゴミの減量化や資源のリサイクル化、ダイオキシン類の排出削減など、さまざまな課題を抱えるなかで、地元関係業者の皆様が、「都市とビル環境」という重要なテーマについてシンポジウムを開催されますことは、誠に時宜を待たず取り組みであり、心強く思います。

皆様には、シンポジウムの成果を踏かしていただき、ビル管理をはじめ、快適な都市環境の維持、発展に向けて大きく前進されますことを期待しています。

〔社〕福岡県ビルメンテナンス協会のますますのご発展と、会員の皆様のご健康、ご活躍をお祈りします。

都市ビル環境の日'97

行事プログラム

開催日時:平成9年10月4日(土)10:00-16:00
開催場所:福岡市民会館 小ホール

[午前の部]

建築物環境衛生管理技術者セミナー

10:00	開会挨拶	福岡県ビルメンテナンス協会 会長	末吉 桓寧
10:10	来賓挨拶	福岡県保健環境部生活衛生課 課長	古賀 政利 氏
10:15	来賓挨拶	(財)ビル管理教育センター 理事長	小川 博 氏
10:45	講演	福岡県保健環境部 技術主査	野原 隆士 氏
11:15	論文発表	西日本管財(株) 営業部長 大成管理開発(株) 業務主任 ライオンビルメンテナンス(株) 開発室室長	轟 和宏 井上 禎 安藤 秀徳
11:50	閉会		

[午後の部]

シンポジウム「都市とビル廃棄物」

13:00	開会挨拶	福岡県ビルメンテナンス協会 会長	末吉 桓寧
	来賓挨拶	福岡県知事	麻生 渡 氏
13:30	基調講演I	福岡市環境局管理課ごみ減量推進課長 演題「ビルにおけるごみ減量」	梶原 嘉郎 氏
13:45	基調講演II	日本特殊工業株式会社 代表取締役 演題「ビルメンテナンスと廃棄物の管理」	小川 光昭 氏
14:15	青年部研究発表	セッションI「医療系廃棄物の処理システム」 セッションII「ビル系内の廃棄物処理システム」 セッションIII「ビル廃棄物処理システムの将来構想」	
15:00	パネルディスカッション		
16:00	閉会		

[午前の部]

建築物環境衛生管理技術者セミナー

開催趣旨

近年、ビルから発生する廃棄物の量は、経済成長と生活様式の多様化に伴い増加してきましたが、再利用や再資源化への動向も顕著です。こうした背景のなかで、ビル内廃棄物に関する収集・貯留・中間処理・搬出等のシステムや要素機器は、作業の安全性や効率化の面で見直されており、廃棄物を管理する場合は、このような社会情勢や排出量を再認識し、安全で経済的な管理システムを構築する必要があります。こうした状況を踏まえ、今年は「都市とビル廃棄物」をテーマに掲げ、ビル所有者の管理責任を支援すべき立場にあるビル管理技術者に、バランスの取れた管理技術を身に付けていただくための勉強会を開催いたします。

[挨拶]

小川 博 氏

(オダワ ケロン)
財団法人 ビル管理教育センター 理事長

Profile

厚生省環境衛生局環境衛生課課長補佐(社労士当時)、青山財公舎・厚生部次長、愛知県保健部長、厚生省東北地方国務局長、公害健康被害補償予防協会理事、労働省労働保護委員会委員を歴任。現在、財団法人ビル管理教育センター理事長、医学博士。



[講演]

演題/ビル管理士の立場から「都市とビル廃棄物」を考える

野原 隆士 氏

(ノハラ タカシ)
福岡県保健環境部環境衛生課
廃棄物対策課 技術主査

Profile

昭和30年生まれ、日本大学農獣医学部卒業。
平成8年4月より現職。



[論文発表]

テーマ

病院における廃棄物
処理の問題点と対策



轟 和宏
西日本管財(株)
営業部長

テーマ

福岡市管地下鉄に
おける廃棄物調査



井上 禎
大成管理開発(株)
業務主任

テーマ

米国のゴミ問題の現状



安藤 秀徳
ライオンビルメンテナンス(株)
開発室室長

シンポジウム「都市とビル廃棄物」

基調講演

基調講演I

演題
「ビルにおけるごみ減量」



梶原 嘉郎氏
(カワラ ヨシロウ)
福岡市環境局管理課
ごみ減量推進課長
Profile
昭和18年生まれ、
昭和41年福岡大学卒業。
平成7年4月 現職。

基調講演II

演題
「ビルメンテナンスと廃棄物の管理」



小川 光昭氏
(オガワ ミツアキ)
日本特殊工業株式会社 代表取締役
Profile
昭和50年生まれ、
大阪市立都島工業高校土木科・大阪
工業大学工業経営学科。昭和67年、
日本パイナック (株) 設立、感動性
産業廃棄物処理方法開発。昭和85年、
日本特殊工業 (株) 設立、現地機番
開発。平成元年、全国初の医療系廃
棄物の中間処理許可取得。平成4年、
廃棄物の資源回収法特許取得。平成
7年、(株) ニスコム設立、通称
足利町の産業廃棄物管理システム
開発。現在、その運用事業開始。

パネルディスカッション

コーディネーター



小川 光昭氏
日本特殊工業 (株) 代表取締役
Profile
昭和50年生まれ、
大阪市立都島工業高校土木科・
大阪工業大学工業経営学科。
医療系廃棄物の管理システムの
研究開発に携わる。

パネリスト



梶原 嘉郎氏
福岡市環境局管理課 ごみ減量推進課長
Profile
昭和18年生まれ、
昭和41年福岡大学卒業。
平成7年4月 現職。



野瀬 光春氏
福岡朝日ビル(株) 営業課次長
Profile
昭和52年生まれ、
九州電気専門学校卒業。
九州電気工事(株)を経て現職。
貸室貸付借契約業務に携わる。



東嶋 洋成氏
(株) アサヒ ファシリティー マネジメント
九州支店 技術担当課長
Profile
昭和10年生まれ。
(株) 竹中工務店作業部長・見直し課長・
労働安全部長を経て現職に至る。



金子 誠氏
(株) 福岡県ビルメンテナンス協会 青年部長
Profile
昭和20年生まれ、早稲田大学卒業。
(株) 朝日ビルメンテナンス
取締役営業開発部長。
(財) 産業廃棄物管理センター
九州支部専務副。

青年部研究発表

研究統括 佐藤 恒士 (三信ビル管理) ・山下 剛史 (山下商店)

セッションI「医療系廃棄物の処理システム」

班 長	百富 一夫 (廣防衛ビルサービス)	浦 圭司 (新生ビルメンテナンス)
副班長	待鳥 俊郎 (九州ビルサービス)	古賀 健太 (九州ビルサービス)
	山崎浩太郎 (ダイワス)	赤星 博昭 (九州ビルサービス)
	狩野 繁 (女田建物管理)	吉賀 淳 (大川ビル管理)
	妹尾 一成 (ダイワス)	吉賀 孝 (大川ビル管理)
		松尾 洋一 (九州ビルサービス)

医療の現場における廃棄物処理の実体と問題点を提示し、処理システムの改善と、今後さらに求められる、安全で衛生的な処理のあり方を模索します。

セッションII「ビル系内の廃棄物処理システム」

班 長	多田有一郎 (クリーン商会)	岡崎 清治 (東洋美装)
副班長	香月 生 (新日本管財)	桑島 寿彦 (東洋美装)
	井上 美彦 (美化)	秋好 恵美 (東洋美装)
	馬場 武利 (九州ビルサービス福岡)	古賀 治紀 (三洋ビル管理)
	福西 淳二 (総合システム管理)	水野 吉樹 (水野虎一商店)
	江渡 治彦 (総合システム管理)	打越 基安 (三洋ビル管理)

廃棄物処理法の改正に伴い、廃棄物処理に係わる作業量の増大や有料化による処理コストの増大が発生してきます。その為、実際の現場において減量化を実施するに当たり発生してくる問題点を提示し、あるべき姿を求めます。

セッションIII「ビル廃棄物処理システムの将来構想」

班 長	中村 成典 (大成管理開発)	霧 和宏 (西日本管財)
副班長	西田 光博 (東洋ビル管理)	新郷比佐文 (西日本美装サービスセンター)
	西村 泰吾 (西村成美産業)	山田 五郎 (光栄建物管理)
	行平 泰夫 (東福互光)	川原 淳 (川原グループ)
	目下部真一 (福岡興業)	佐藤 万英 (西日本美装サービスセンター)
	倉重 一男 (三笠特殊工業)	渡辺 敏也 (富士美装)

セッションIIの現状を背景として、われわれビルメン業者がこの廃棄物問題にどのように踏み込んで捉えることができるかを検討し、再資源化・リサイクル・リユース等を機軸に大胆に将来構想を模索します。

平成9年度 第3回クリーンアップ福岡に向けて

クリーンアップ福岡も、別を重ねて今回で3度目となりました。この活動は、私たちビルメンテナンス業界のイメージアップや、地域社会へのアピール、そして連帯意識の向上をめざして取り組みをはじめましたが、先人も「千里の道も足下から」と言われていますように、一年一年の積み重ねが実を結んでくれるものと確信いたしております。昨年、そして一昨年の活動を通じて、その手応えをしっかりと感じています。

私たち一人ひとりの活動は小さなものですが、この活動に県下協会のクリーンクルーが多数参加されることによって、点は面となり、また回数を重ねることによって、それは大きな力となってまいります。

近年、各市町村でも条例等で「ゴミや空き缶のポイ捨て禁止」をうたい、道路や街の美化に大きな関心を寄せています。さらに河川の浄化や都市環境の美化に多くのボランティアが参加しています。マスコミ等でもこのような関心をとり上げ、いまや環境衛生の問題は社会的な基がりを見せています。

そのような中、私たちビルメンテナンス業の仲間が、ただ、ボランティア活動ということではなく、私たちの仲間が、そして一つの夢をやり遂げるにより大きな連帯感が生まれるのではないのでしょうか。

私たちの使命は、快適で衛生的な環境を創造し、提供することです。いわば「環境創造業」と言えます。そのような観点から私たちの仕事を見直せば、将来に向かって社会に大きな貢献をもたらす重要な産業であることは間違いありません。

この「クリーンアップ福岡」の活動を通して、県民の方々にビルメンテナンス業の重要性を再認識して頂くとともに、私たち自身も「環境創造業」として社会にどのように貢献できるのかを問い直す良い機会にしていきたいと考えます。

Clean-Up FUKUOKA

第2回「クリーンアップ福岡」

Snapshot

スナップショット

The 2nd



福岡地区



北九州地区



筑農地区



筑前・筑後地区



第3回目の今年はこのような展開をめざします！(各地区の活動計画)

福岡地区
責任者 古田 純之輔 (株)知理会
私たち福岡地区では、一般社会への清掃意識の再認識、地位向上を念頭において、地道ではありますが各協会会員のお力添えの下、限られた時間を最大かつ効果的に清掃奉仕作業を実施したいと考えています。
多くの人々の目にもれ、利用され、しかも清掃後のクリーンアップ効果が大きく、人々に喜ばれる公共の場として、協議の結果、東中津と天神を結ぶ大動脈の中津大橋の歩道の自動洗浄機等による洗浄、ゴミの除去を重点的に実施し、併せて関係している水上公園の清掃を実施予定しています。会員皆様のご参加とご力添えを心よりお願い申し上げます。

北九州地区
責任者 永野 雅信 [日本エスエム(株)]
「都市ビル環境の日」の設立に伴い、前年は北九州市が特に力を入れているマイリバー計画にそって、瀬川に架かっている大橋の橋の舗石タイルの洗浄作業を実施しました。この作業は、市民の方々にビルメンテナンス業の仕事を理解していただくよい機会となり、また、公共の場所の美化に貢献できたと思っております。
本年度は、北九州市の台所として有名な日通市場(日通橋)の三角公園(通称どんどこ広場)の舗石タイルの洗浄作業及び福岡大公園の時計台の清掃作業を計画しています。また「都市ビル環境の日」を市民にアピールする一環として、北九州市本庁舎前スタート→早稲通り→小倉駅→本庁舎前のコースにて、ゴミ収集作業を実施していくことにしています。

筑農地区
責任者 大塚 明人 [三信ビル管理(株)]
平成7年度に10月4日を「都市ビル環境の日」と定め、その一環として「クリーンアップ福岡」を実施してまいりました。今回は昨年と同様に、歩道や植え込み等のゴミ収集および緑道公園の石畳を洗浄する計画です。
この「クリーンアップ福岡」を通して、クリーンクルーの皆様が自覚と結束と、そして自信を持ち、市民の方々に環境問題について一人ひとりが考え直す機会になれば幸いです。
“美する我が街のために”。

筑前・筑後地区
責任者 水口 詩朗 (株)クリーン西成
「都市ビル環境の日」も設立以来3年目を迎え、ビルメンテナンス業を快挙にアピールする一環として行う「クリーンアップ福岡」も、昨年はテレビ等で報道され、市民の方々の認識を新たにできたものと思っております。
筑前・筑後地区は、昨年と同様に各自治体と連携ととりながら公園等の清掃を行っています。久留米地区では、市役所から西鉄久留米駅間の歩道清掃を行います。私たちの地区は広範囲のため、各地域ごとに地方都市なりにアピールできるクリーンアップの目にしていきます。